ハンドマイク街頭演説原稿例　汚染水の海洋放出を中止せよ

二〇二三年八月二十五日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、東京電力が８月２４日昼から、福島第一原子力発電所の事故により発生した汚染水、アルプス処理水を海に放出しています。今回は約七千八百トンの処理水を、海水を混ぜて薄めたうえで１７日間かけて放出する計画です。海洋放出については、マスコミの世論調査で９割近い人が「風評被害が起きる」と回答しているように、漁業だけでなく農業や観光業にも影響し、福島の復興に重大な障害となります。日本共産党は海洋放出に強く抗議し、一刻も早く放出をやめるよう強く求めます。

　岸田首相はこれまで、アルプス処理水の海洋放出は「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わない」と、漁業者との間で約束していました。ところが漁業関係者はこの間、いっかんして海洋放出反対を表明し続けています。関係者の理解を得られていないことは、明らかではないでしょうか。

　一方、岸田首相は東京電力の小早川智明社長に、風評被害に適切に賠償するよう求めました。また、漁業関係者に対しては、風評被害対策のために３００億円、漁業継続支援のために５００億円などの基金を設けたと説明しました。これは、風評被害が避けがたいと政府が認めていることにほかなりません。放出は３０年以上続くとされます。風評被害が長期にわたれば、漁業が続けられなくなる危険も出てきます。原発事故の被害者に、さらなる被害を押し付けることは許されません。

　みなさん、アルプス処理水は、大量の放射性物質を含む汚染水から、アルプスと呼ばれる装置で放射性物資を取り除いたものです。アルプスはほとんどの放射性物質を取り除くことができますが、放射性水素・トリチウムは取り除けません。また、セシウムやストロンチウムなどの放射性物質もわずかながら残ってしまうことは、政府も認めています。高濃度のトリチウムをはじめとする放射性物質を含む処理水の放出を、漁業関係者などが反対することは、むしろ当然のことではないでしょうか。

　原発敷地内のタンクに保管されているアルプス処理水はすでに１３０万トンを超え、日々９０トンほど増えています。政府は「汚染水のタンク保管は限界だ」として、海洋放出を決めました。しかしながら、専門家からは海洋放出以外の対応方法の案が提案されています。今からでも海洋放出を止め、別な対策を真剣に検討し対応するべきではないでしょうか。岸田首相は、福島の復興の障害となる海洋放出をやめ、そもそも汚染水を増やさないための対策を含め、事故収束に力を尽くすべきです。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）